



角太橋が実績150件超に 急速簡易施工が可能

三所川橋（中国地整）

新日鉄住金エンジニアリング（東京都品川区、高橋誠社長）が展開中の小支間向け橋梁「角太橋」が昨年度までに実績150件を超えた。

角形鋼管を用いたメタル床版橋で、平成16年度の小沢田橋（秋田県・上小阿仁村発注）を皮切りに国交省、農水省、NEXCO、地方自治体などで活用が進んできた。車道タイプの構造は、角形鋼管を敷き並べ、所定のピッチで鋼管を角形鋼管に挿入し、コンクリートを充填・固化することでパネル化したもの。設計

荷重はA・B・群集荷重、支間長16桁程度、幅員は無制限に対応する。

特徴は、①死荷重低減による既設下部工の再利用、②構造高が低く抑えられるため、桁高制限のある都市内河川や構造物との立体交差に最適、③工場製作のパネルユニットを現場搬入し、接合一体化するため急速かつ簡易施工が可能、など。

同社は「角太橋が強みを発揮する制約条件のある架設現場を中心に、本格化する老朽橋の更新事業に役立てていただきたい」としている。